

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社 カリヤ
事業所名	グループホーム愛
訪問調査日	平成 21 年 2 月 19 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300575		
法人名	有限会社 カリヤ		
事業所名	グループホーム 愛		
所在地	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8 (電 話) 0994-40-6100		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月16日

【情報提供票より】平成21年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 16.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造一部木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円(水道光熱費)
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(1 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青仁会池田病院・碧仁会井ノ上病院・彩苑会園田クリニック・さかもと歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

道路沿いに住宅が並ぶ中にグループホーム愛の字が目に残る。玄関前に縦列に2〜3台の駐車場があり建物は訪ねやすい造りである。運営者は「利用者が地域の中で明るく、楽しく、仲良く、穏やかな生活が送れるよう」を理念とし、ホームの裏には600坪の畑や600坪のグラウンドを所有し、自家製の野菜を栽培したり、利用者や地域の人との交流の場に使用している。利用者は職員と敷地のサクランボ、金柑、野菜、花など季節の収穫を行い自然と向き合った生活を楽しんでいる。管理者はご家族に手書きの便りや電話で連絡を密にし信頼関係ができています事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は3項目あり、評価の意義の理解と活用については自己評価の取り組みが職員全員での十分な取組とは言えず課題が残る。運営に関する家族等意見の反映は運営推進会議・家族会・アンケート等で家族の意向を求める努力がなされている。チームで作る利用者本位の介護計画は利用者の関係者が一同に集まることはできないが、家族、医師の意見をふまえながら、ケア会議で意見を出し合って利用者本位の介護計画を立てている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	取り組みに関しては職員一人ひとりが、自己評価に取り組んで自ら改善点を明確にし改善点に向けて自発的努力と体制を促すには至らない。管理者の聞き取り調査で把握され、事業所幹部で作成されたものを、職員は閲覧している。職員のケア意識向上を促す教育的効果を期待できる機会と捉えて頂き今後の取り組みに期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は市職員、家族代表、地域老人会々長、理事長、施設長、管理者等で定期的に開催されている。会議はホームの行事・会議・研修の取り組み、外部評価報告が行われている。運営推進会議を通じて地域との交流は現在活発に行われている。今後も抱える問題点や、外部評価改善課題などモニター役としての意見を運営に活かされることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見を出せる場として、運営推進会議や家族会もあるが、ご家族へは毎月来訪して頂くよう支払いをホームに持参してもらっている。訪問の際に近況報告や意見など話し合う機会を設けている。あまり意見が出ないのでアンケート調査を実施するなど努力されている。意見や提言があれば、受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者・運営者の家族はホームに隣接して居住し、近隣は住宅地であり地域との交流は日常的に行われ気軽に声をかけ合える。町内会に加入し地域行事に参加したり、地域小学校やボランティアグループの来園も盛んである。経営者は地域高齢者の相談に応じたり、家族会では地域の高齢者も招待し一緒に食事会をするなど地域交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年4月に認知症対応型通所介護を開設に当たり設立当初の理念を見直し、地域密着型サービスとしての相応しい理念に作り変えている。職員の理念と入居者の理念を掲げた事業所独自のものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員と入居者は日々2回理念の唱和を行い、実践に向けて取り組みをしている。管理者は職員研修の場においても意識を高める事を伝えている。職員はホールに大きな文字で理念を掲げ、共有しながら理念の実践に向け取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営者は地域住民であり近隣の人とは気軽に声をかけ合える環境である。町内会に加入しており、地域行事(運動会、文化祭、餅つき、草刈りなど)に参加したり、事業所として地域の高齢者の相談に応じたり、又地域の小学校やボランティアグループの受け入れなど交流が活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価改善点3項目の内1項目については引き続き課題が残る。今年度の自己評価について運営者、管理者は十分に活用されているが全職員が参加するまでには至って無い。	○	全職員で自己評価に取り組むことで事業所としてのサービスの見直しができ、全職員が自ら改善点を明確にし、自発的努力を促す効果につながることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議のメンバーで開催されている。運営推進会議を通して地域交流の機会が増え良い効果となっている。現段階では事業所の活動報告が主に行われており、課題点も無く活発な意見交換をするには至っていないが、管理者は会議の意見、提案は前向き捉えサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉地域支援係の職員4～5名に運営推進会議に交替で出席してもらっている。管理者は職員と顔馴染みでグループホーム便りを届けたり、各種の必要な事務手続きで出かけた際には助言や指導に応じてもらっている。介護相談員は鹿屋市には無い為受け入れていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月写真掲載に暖かい手書きの手紙を添えたホーム便りを発行してホーム内の様子を伝えている。健康状態は受診の連絡、報告等随時電話連絡されている。来訪時に金銭管理の確認をしてもらい、要望を聞いたり個別の報告などしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会を設けたり重要事項に苦情相談窓口を明記している。面会時や運営推進会議など意見を聞く機会を設けている。その他意見箱の設置をしているが意見が無く、アンケートを実施したが意見や苦情につながるものはなかった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は馴染みの職員による介護を重視しており、職員の異動はしない。職員同士気持ちよく働けるよう食事の機会を作ったり配慮されている。今まで事業所は異動の問題はないが職員の年齢がかなり高いため今後の対策が必要に思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では毎月管理者がテーマを考えて時期に見合った研修を行っている。外部研修についても管理者が研修内容から出席者の人選を行い研修に参加させ、ホームに於いて伝達研修をしている。介護福祉士の資格や普通救命士上級課程の受講など職員の育成に取り組んでいる。	○	今後はそれぞれの職員を段階的に育成できるよう年間計画をたて、計画に基づいた研修の取り組みをされることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に参加し、運営者は役員を引き受け全職員が交流会や勉強会に参加できるよう取り組んでいる。隣のグループホームと研修会の開催をするなどサービスの質を向上させる取り組みもしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には本人が馴染めるように数回の来園を体験してもらうよう図っている。それぞれ通所体験であったり、自費入所体験であったり、ご家族と共に食事をしてもらう等工夫している。病院からの入居は連絡を取り合い顔見知りになるよう努め本人が安心して入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は1日の流れの中で、経験豊かな調理の技や味付けを教わりながら食事を作り、一緒に洗濯物をたたみながら昔の話や、生活の知恵を学び、入浴介助して感謝の言葉をもらい職員は癒されるなど、一緒に支え合いながら過ごされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで一人ひとりの思いや生活の把握をされている。入居されてからも日々の生活の中での言葉や態度など観察され本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の関係者が一同に集まることはできないが、家族の来訪時意見や要望を伺い、本人の心身の状況、かかりつけ医の診断書を参考にしたり、職員と意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議を行いモニタリングし記録している。変化のない人は6か月毎見直しの必要性を検討している。それ以前に心身の変化があった時はプランの見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院は基本的には家族が付き添うが本人や家族の状況に応じ柔軟に支援をしている。医療連携体制をし職員に看護師2名を配置し健康管理をしている。認知症対応通所介護を行ったり、近隣住民の相談には専門性を活かしアドバイスやサービスの紹介など多機能を活かし支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、ご家族の意向を尊重し、それぞれ希望にそったかかりつけ医で受診している。事業所は主治医や家族との連携も密にし信頼関係を築き適切な医療が受けられるよう支援している。受診記録を記載し、医師の指示、服薬方法など職員への周知も徹底して行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針は作成されており、重度化した場合早い段階から家族やかかりつけ医とは繰り返し相談して、その方針はスタッフ全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の生活の中で入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応について管理者は気配りしているが、馴れ合いから見られる職員の対応が気になる。個人情報の取り扱いも周知し、職員の守秘義務は雇用契約にも謳っている。	○	入居者、職員とも長年一緒にの生活をしているため、馴れ合いから生じる気付かない言葉かけや対応になりやすい。職員は第三者からの立場に立って、入居者に対しプライバシーを損ねる言葉づかいや対応になっていないか話し合っていたきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく本人の生活のリズムや希望を大事に買い物、墓参り、通院、部屋の掃除、草取り、外の空気が吸いたいなど一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように経営者は敷地内で野菜を作り入居者はいつも新鮮な野菜を見ることができ、収穫や下ごしらえ、好みや食事形態も希望を取り入れてもらっている。行事や誕生会、時には目先を変えて外から弁当を取ったりして職員と一緒に同じものを食べて和やかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっており、体調の悪い人や拒否の人を除いてほとんど楽しみに入浴している。入浴の順番について問題が発生しないよう順番表を作り仲良く治めている。発熱の人には清拭で対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の役割はテーブル拭き、洗濯たたみ、掃除、農作業等利用者の希望や過去の生活歴などからできそうなことを無理強いするのではなく楽しみにしてもらっている。切干大根を作ったり、散歩したり、花見に出かけたり、歌を歌ったり、ドライブに出かける等、楽しみ事の場合作りの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は利用者の希望に応じ買物、お墓参り、自宅帰り、裏の畑に行く、茶畑の散歩等支援している。事業所の裏に隣接した保有する600坪の畑と600坪の芝生の土地があるため日常の外への支援は行いやすい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外玄関の鍵はしない。居室にも鍵はしない。外出傾向の人もあるが、裏から出かけ茶畑の散歩でおさまっている。近隣の班が4ヶ所あり、ホームたよりを回覧したり、裏の土地でミニグランドゴルフをしたり顔馴染みの人が多く日頃から協力してもらえる環境ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え鹿屋市中央消防署や地区消防団と年3回火災訓練・避難訓練・通報訓練を行っている。災害時に備え、日頃から地域の協力体制も図っており、連絡網の作成、補強対策、水や食料備蓄も確保されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回管理栄養士を講師として栄養教室を開催し、職員はバランス良い献立やカロリーについて知識を得ている。職員はその都度偏りが無いように献立を考え調理している。食事や水分摂取量についても日々記録され、摂取量の変化や体重の変化を看護師により管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは広く天井も高い造りで壁に入居者の方が共同で作成されたお雛様の大きな貼り絵が季節を彩っている。それぞれが落ち着ける椅子やソファもある。ホールには加湿器をおいて部屋の乾燥を防いでいる。雨の日の洗濯干しや除湿の為浴室には乾燥装置があり、脱衣所にはヒーターを設置し入浴の温度差防止をする等快適な生活の工夫がしてある。	○	洗濯場からの排水溝の臭いが一部ホールにこもり不快感がある。食事をしたり一日の大半を過ごす場所なので原因を取り除くよう配慮していただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット、整理ダンス、クローゼット、加湿器、洗面台が備え付けられて自宅からの家具類の持ち込みは殆んどない。自宅からは布団や衣類、家族の写真や時計、鉢植え、ぬいぐるみ等それぞれが必要な落ち着けるものを持ち込み本人が過ごしやすい部屋になっている。		